

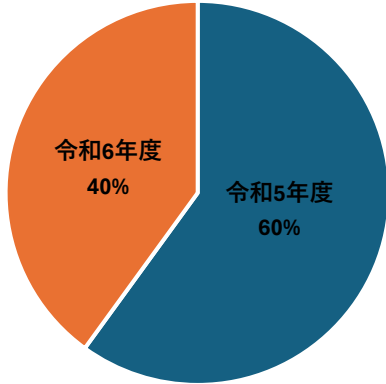
超音波検査技術研修の活用状況 調査結果

青森県助産師活用推進事業で令和5年度・6年度に開催した超音波検査技術研修について受講者へ研修の活用状況を調査した結果です。

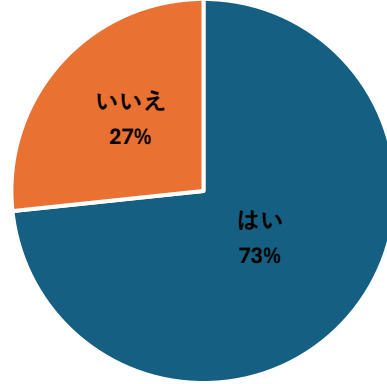
対象者：38人（令和5年度受講20人、令和6年度受講18人）

回答数：15人（回答率39%）

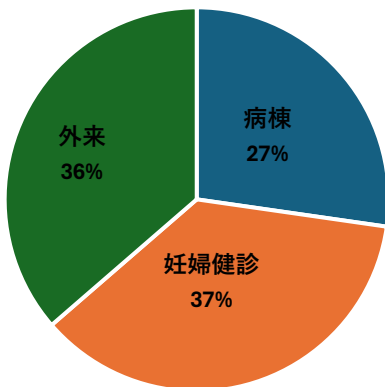
1 受講年度



2 現場で活用できているか



3 2が「はい」の回答者（11人）の活用場面



4 2が「いいえ」の回答理由（4人）

- ・やる機会がない
- ・助産師が超音波を実施していない
- ・婦人科勤務となり産科から離れたため
- ・助産外来で活用したかったがまだその機会がない

5 研修受講後の変化

- ・観察視点が増えた
- ・空間把握 プロープの動かし方
- ・積極的に超音波に触ってみたいくなる
- ・助産外来で活用したいという気持ちになった
- ・積極的に計測などの実践するようになった
- ・プローベに触る不安が少し軽減した。
- ・超音波検査技術をもっと身につけたいと思った
- ・外来や分娩の際にエコーを使ってみるが増えた
- ・自信を持って超音波を実践できるようになった
- ・写っている胎児の位置や向きなどの理解度が深まった。自分の理解度が上がったためか、妊婦さんへ説明しやすくなった。
- ・研修後、実践する場面はまだ少ないのですが研修内容を思い出しながら、エコー手技をシュミレーションするようになった。
- ・病棟で児心音を探すときにハンディタイプの超音波を使用しますが、少しでも胎児の見たいところを出せるようになりました。

6 スキルアップするために望む研修

- ・数回の超音波検査技術研修
- ・分娩期の回旋の見方
- ・推定体重
- ・超音波で奇形の観察の仕方
- ・分娩介助の基本
- ・産後ケア
- ・乳房ケアの実技演習
- ・外来、病棟どちらでも活用できるような知識や技術を得ることができる研修
- ・助産院で働く助産師を講師に招いて、保健指導や分娩期のケアを学びたい
- ・CTGの判読、分娩介助技術（基本やフリースタイルなど）、無痛分娩の知識、乳頭乳房マッサージ技術、帝王切開の看護、不妊治療の知識、乳幼児の育児相談に答えられる知識、更年期障害の悩み相談に答えられる知識、プレコンセプションケア、施設間のケアの比較と最新情報